

第30期社会教育委員の会議

第12回定例会

令和6年3月25日

【1】開催日時

令和6年3月25日（月）18時30分～19時40分

【2】開催場所

教育会館3階 研修室「ぎんが」

【3】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、峯岸委員、豊田委員、村上委員、村内委員、
山崎委員、佐藤委員、新海委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

知久教育政策・生涯学習部長、渡邊生涯学習課長、佐々木社会教育係長、
御園生社会教育担当係長、社会教育主事

【5】傍聴人

なし

【6】次第

1 第11回議事録の承認

2 議事

（1）第30期社会教育委員の会議活動報告書のまとめ

3 その他

（1）今期を振り返って

午後 6 時30分開議

○議長 定刻になりましたので、ただいまから第30期社会教育委員の会議第12回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日、堀井副議長が御都合により遅刻、奥平委員が欠席という連絡をいただいておりますので御報告いたします。

では、議事日程に従い進めてまいります。

まず、第11回議事録案の承認でございます。事務局より事前に連絡がありましたので、委員の皆様には御確認いただいておりますが、改めて、何か修正が必要な箇所がございましたら、この場で発言していただき、皆さんと確認していきたいと思っております。いかがでしょうか。

では、問題ないようでしたら御承認いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、この会議終了後、豊田委員と村内委員、署名をしていただきますようお願いいたします。あわせて、今日の議事録の署名については佐藤委員と新海委員をお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より完成版が配付されるということです。

では、議事に移ります。本日は第30期の最後の定例会となります。前回に引き続き、活動報告の完成に向けて議論を進めてまいります。前回の定例会では活動報告案について皆様から幾つか御指摘がありました。その修正案がメールで皆様の下に事前に届けられたと思います。また、今回プリントアウトしたものがありますが、報告書の内容について何かお気づきの点があれば、御指摘、御意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

特に、21ページ、22ページ、「おわりに」として、今までの皆様からの御意見、議論の内容、要点を押さえて、最後に私が2ページ書かせていただきました。第29期の報告書を受け継ぐ形で30期がスタートし、そして「【子ども食堂】【おやじの会】【子どもぶんか村】【総合型地域スポーツ・文化クラブ】を事例として、グループワークや実践的試行を交え、多面的に考察していった」というようなことを書いてございます。この内容も含めて、ここは書き換えたほうがよいというようなところなどございましたら、この場で御指摘いただきたいと思います。よろしいですか。

すぐに指摘するのが難しいということであれば、後で全体をもう一度読んでいただいて、お気づきの点を事務局までお寄せいただければと思います。特になければこれをもって報

告書の完成とさせていただきたいと思いますが、いかがですか。

○委員 私、前回欠席したものですから、これに対して意見というわけではなくて、コメントをよろしいですか。

○議長 報告書についてですか。

○委員 報告書です。

○議長 お願いします。

○委員 この中をどうしろという意味ではなくて、実態というよりは、一番最初の案から何か所か修正してくださいと言ったその辺のコメント。この前の議事録を見ましたらば、そういう説明がなかったものですから、ちょっとコメントさせていただければと思います。

最初、1ページ目になりますが、9行目から11行目にかけてのところ、総合型地域スポーツ・文化クラブについて「区内における地域と学校の連携・協働のしくみ」云々に続いたところ、その次の行に「学校支援地域本部のほかに、住民主導の子どもぶんか村、おやまちプロジェクト、総合型地域スポーツ・文化クラブ」とあったんです。実は最初は「地域運営学校や学校地域支援本部をはじめ、総合型地域スポーツ・文化クラブなどの行政主導のほかに」となっていて、総合型地域スポーツ・文化クラブが行政主導で発足したというふうな意味合いで書いてあったんですが、これは事実と反していて、一般的には文科省が言う総合型地域スポーツ・文化クラブは行政主導が多いのですが、4000幾つあるんですけども、世田谷は、行政主導ではなくて、地域主導、地域が主となって発足したということで、地域のほうでは、私たちの力でつくったんだよという自負と誇りがありまして、これを見た場合、多分異論をつけるだろうと思ったものですから、次のように直させていただきました。つまり、実情を言いますと、多分行政はお分かりと思いますけれども、本来総合型地域スポーツ・文化クラブは、昨年までは区内に9つあったわけですけども、最近2つ増えたという情報がありまして、笹原小地域と船橋小地域かな、11になったと聞いております。これもいわゆる世田谷型とって、地域は誇りにしているんですけども、地域から芽生えたものだというような自負がありまして、世田谷型と自分たちでは言っているんですけども、東深沢スポーツクラブの発足のときに全国的に有名になりまして、いろいろな学区や地域での総合型地域スポーツ・文化クラブが発足、芽生えているところからいろいろな情報が欲しいというようなことがあったようなんです。そういう実情があったものですから、この辺をちょっと直させていただきました。つまり、行政主導ではなくて、地域から生まれたものだというような文言をここに入れさせていただい

たことが1つです。

次に、15ページに行きまして、東深沢カフェ（仮称）ですけれども、活動内容の真ん中ですね。①取り組み内容から、②活動内容で終わっていたものですから、③課題を付け加えさせていただきました。つまり安全・安心の確保、これからはオープン化に向けて取り組んでいきますよということと、飲食があるので、その安全化が課題ですということ、将来的には中学生を参加させたいということ。それから、部活動との連携に活用できるのではないか。4点目に、東深沢スポーツクラブが目指していますクラブハウスの創設に向けての追い風に何とかしたいというようなことを付け加えさせていただきました。

具体的には、後ほどの活動のところでもう少し報告させていただきたいと思います。

○議長 ということは、今、委員が言われたように、地域からのいろいろな思いや動きがあったところに、「総合型地域スポーツ・文化クラブ」として制度化されたものが期せずして一致したというか、それをうまく活用したということなんでしょうね。行政のほうで総合型地域スポーツ・文化クラブをやりたいと言って盛り上げようとしても、必ずしもそれに乗っかるわけではないので、今言われたような東深沢などでの動きがあって、ちょうどそういう枠組みとマッチして、つくられていったというふうに理解したほうがいいと思います。

○委員 国が音頭を取ってきたのは、要はモデル地域でつくったのは行政主導なんですね。ほぼそういう形、路線があったものですから、それとは違うよという意味で、地域ではそういう誇りを持っているよと。

○議長 それは、東深沢以外もそうなんですか。

○委員 世田谷は基本的にはそのように聞いています。もちろんできてからの物品の援助とか、そういう行政の補助、援助はありますけれども、生まれたところは地域だという形として、世田谷型となっております。

○委員 最近できた船橋小学校では、行政が主導でした。どうしてもこの地域につくりたいという説明があって。でも、ぶんか村とかぶるのはよくないみたいな議論があったりしながらつくっていったので。

○委員 その情報はなかったものですか。じゃ、新しい形がでてきたということでしょうか。

○委員 だから、今は行政もそういうふうに少し変わってきたところがあるのかもしれない。

○委員 だそうです。私は最近の傾向は分からなかったものですから。

○委員 住民主導という言葉の中に子どもぶんか村が入っているんですけども、活動資金は行政から頂いているのに、こう言い切ってしまうといいのかなと思ったんです。子どもぶんか村は地区委員会の委託料で賄っているんで、住民主導という言葉の中に入らなくていいかなと。

○委員 純粋な住民主導ではないけれども、発足形態としては住民主導という意味ではないのですか。

○委員 そうなんですか。

○委員 そうだと私は思います。

○委員 言っているんですか。事務局はまちづくりセンターの職員さんですけども、いいんですか。

○委員 その辺は微妙ですね。

○委員 微妙ですよ。だから、そこまで言ってしまってもいいかなと。

○議長 書き方を工夫していただけますか。

○事務局 1つ提案ですけども、様々な形態があるということですので、例えば「区内における地域と学校の連携・協働のしくみとしては、行政主導の……住民主導の」となっていますが、行政主導、住民主導という言葉はそもそも省いてしまうほうが誤解はないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員 私は結構です。

○委員 私もそのほうがいいです。

○議長 ということなので、この部分は修正しましょうか。多分厳密に見ていくと、制度化されたときの、こういう制度にしようという法律がつくられたときのものと、地域で学校を盛り上げていこうという機運が高まっていることとの両方がうまくかみ合った例だと思います。コミュニティスクールなども、法律が改正されて、教育委員会に努力義務が課されましたので、そういう意味では、行政主導ということではありますけれども、皆さんよくお分かりのように、行政がやれやれ言っても、地域やいろいろな方たちがその気にならなければ、仕組みを入れても、うまくいきませんので。そういう意味では、子どもぶんか村は地域でやろうとした。ただ、予算がうまく使えているということもあるので、地域だけということでもないんでしょうけれども、地域の方たちの思いがかなり強くあるのではないのでしょうか。

先ほど申し上げた「おわりに」のところ、基本的にはそういうことではないかなと思って書きました。例えば【子どもぶんか村】と【総合型地域スポーツ・文化クラブ】は、どちらも、「しっかりとした組織に支えられ、長きにわたり活動をしてきた団体である」と書いています。事実と違うことがあれば、直さなければいけないんですけども、【子どもぶんか村】は「自分のことが好きになって、仲間のことが好きになって、住んでいるまちが好きになって子ども同士大人同士がつながっていく。私たちはそんなまちづくりをめざしています」というふうに委員がプレゼンのときにおっしゃったことを書かせていただきました。

【総合型地域スポーツ・文化クラブ】については「私やあなたが毎日生活している地域で、だれでも、いつでも、いつまでもスポーツや文化活動が楽しめるよう、地域（私やあなた）が少しずつ力を出し合って運営していく、手づくりのクラブです」としました。パンフレットに書かれていたことを引用していますが、ニュアンスの問題などがあればお知らせください。おっしゃっていただきたいなと思っていますが、今すぐでなくても結構ですので、読んでいただいてと思っています。

同じように【おやじの会】の活動報告では、「会社のように決まりごとや上下関係がないからこそ、やりたい人がやりたいことを好きなように、イキイキと活動し、充実感・達成感を得ている姿がみられた」と、私が活動報告のビデオ見せていただいて感じたことを書いてあります。委員が前回の会義での言われていた「忙しいとか時間がないとかよく言うけれど、それはやらされているから。面白いと思って、自分から意欲的にやるときには人は動く。子どもに一番、教えなくてはならないのは、そういうことではないか」との意見は、「耳は痛い为核心をついている」と感じましたので、それも書き加えました。

【子ども食堂】については、「何に縛られるわけでもなく、なんとなく、ふわふわと人があつまってきて、楽しくやっている」「さまざまな事情で、あるエリアでの子ども食堂を閉じて、別のところで別の名前で活動を継続していけばよいのでは」と語っていたが、そこには「組織化されていないこと」のメリットや「活動を終えることで、むしろ、継続していくのである」という発想がある。こうしたところに、ある種の特色というか、継続していくことの秘訣を感じた、というように書かせていただいております。

以上の4つの活動に即して試行的な実践と報告、議論を積み重ねましたので、短い言葉ですが、それぞれの活動の特色などに触れさせていただいたと御理解いただければ幸いです。お気づきの点があればどうぞおっしゃってください。

では、特に御意見なければ、報告書については、一旦、これで完成とさせていただきますと思います。お気づきの点、特に事実と違うようなことがあれば事務局にご連絡ください。もう会議はありませんので、修正の確認等については、事務局と私に一任とさせていただきますと思います。よろしいでしょうか。

では、議事としてはこれで終了とさせていただきます。皆様、御協力ありがとうございました。

議事は1つですので、3、その他に入りますが、今期を振り返ってということですが、第30期2年間にわたり12回の定例会を行ってまいりました。また、定例会以外にもいろいろな活動を試行していただいて、いろいろなことに御協力いただきました。最後に、皆様から、今期を振り返っての御意見をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、委員から回っていただければと思います。

○委員 いろいろありがとうございました。我々のミッションであった、地域と学校の連携・協働の仕組みということで、非常に大きな課題、この報告書で全部が解決したわけではないので、これからもまだまだ考えていかなければいけないことはあると思いますが、「東深沢カフェ」ということで発足させていただいたんですが、実績を報告しますと、12月23日（土）から始めて、つい先日の3月23日（土）まで5回、カフェを実施して、延べ105人。まだ総合型地域スポーツ・文化クラブの会員の中でとどまっていますが、1日平均21人の使用があったという報告を受けています。

連携・協働の中で、私、前回欠席したんですが、議事録を見せていただいて、議長から学校協議会というお話が出ていたことで、私、平成9年、1997年、世田谷が全国に先駆けて発足したことを思い出しました。皆さんよく御存じかと思いますが、実は私、当時は太子堂中学校におりまして、太子堂地区はこの協議会の発足の地なんですね。よくその辺は体験しているものですから、思い出しました。その2年前の平成7年に阪神・淡路大震災がありまして、それが1つのきっかけとなって、地域の中学生が避難所のトイレ掃除をしたり、非常に役立ったという話があったり、学校が防災基地になったという話があったりして、それと連動できないかということがありました。

もう一つは、1990年代の初めからこの協議会ができる1997年、1998年頃にかけて、御存じのように中学校が大変荒れた時代がありました。学校の力ではどうにもならないようなところまで行って、何とか地域の力を借りなければいけないのではないかというようなことで、地域の教育力を何とか生かせないかと。大きくはこの2つがきっかけで学校協議会

が始まったということ。1つは子どもたちの健全育成、2つは地域の防犯、防災、3つ目は学校教育の充実という3つのテーマを掲げて発足したわけですね。

これがどこまで行ったかは別にして、私はその頃、中学生にD型ポンプだったかな、町会で火を消すための実地訓練をみんなでやったり、あるいは1泊の避難所運営訓練をやったりということ思い出すわけですが、そのときは、学校と家庭、地域住民の連携協働までは行かなかったですが、連携協力を標榜されていたわけですね。学校と地域のウィン・ウインの関係がまだあったんですね。つまり学校が地域にお願いしますという面と学校が地域の活動拠点として学校施設を提供しますという、どちらも利益といますか、ウィン・ウインの関係があったので、それがそのままずっと続いていけばいいなということでした。その後、学校評議員会があったり、学校運営委員会があったりで、組織がごちゃごちゃになりまして、地域も学校も分からなくなってきたというのが恐らく実情ではないかなと思います。いろんな組織はあるんだけど、メンバーは一緒だということもあって、ここまで来ているわけで、今は地域運営学校に設置された学校運営委員会という形で統一されているようでもありますけれども、学校協議会もなくなったわけではないんです。機能しているかどうかは別にして、あることはあるんです。だから、平成9年あたりが1つの始まりではないかなと思いつつ、その流れと、今、私たちがやっている地域と学校の連携・協働とがどう結びついていくかなということも私、この2年間、ずっと考えてきました。そこから新しく踏み出さなければいけないかなと思って、2年間、考えて、まだまだ私の中で結論は出ていませんけれども、これからどう発展させていくのかというような課題もまだ残っているというのが率直な感想です。

取りあえず、そんなところでよろしいでしょうか。

○議長 委員が言われた太子堂のことを私も少し勉強しました。確かに全国に先駆けて素晴らしい活動をしていていました。ただ、その後、国の制度等が追いついて、いろいろな仕組みができて、ちょっと複雑になってしまったり、場合によっては形骸化してしまったり、やっているところとやっていないところがあったり……。委員が言われたような学校と地域が連携した活動と子ども食堂とか、おやじの会とかはスタイルが違うので、別の原理が必要というか、そうした活動がどうマッチしていくのかなと思いつつ、今のお話を伺っておりました。ありがとうございました。

○委員 私も前回の会議をお休みさせていただいて、すみませんでした。

私ごとなんですけれども、約1年前に引っ越しまして、世田谷区内ではあるんですけれ

ども、子どもが通っていた小学校、中学校の地域から離れて生活をしており、私、元PTA連合協議会会長という立場でこちらに参加させていただいているんですが、子どもたちの通った学校でやったPTA活動はすごく地域に根差した活動だったんだなというのを離れて改めて感じました。また、今回、30期の会議の中で取り上げられた4つの団体の活動、いろいろな調査を聞いたり、皆様のお話を聞いたりしている中で、地域に根差した活動にPTAがより大きく参加して、いろいろな意味で影響を与えているし、活動の基本になるのはPTA活動をした方だったりということがあったので、PTAの形は今いろいろ取り上げられて変わってきてはおりますけれども、今後も続いていくといいなと思っております。

私自身は今、子どもが卒業した学校ではない地域にはおりますが、PTAバレーボールという形でまだ元の学校で活動しておりますので、おやじの会の委員のお話だったり、子ども食堂の委員のお話だったりを聞いていると、子どもを介したつながりで地域のいろいろな活動に関われることは本当に幸せなことだったなと一区民として思います。

また、皆様の4つの活動にいろいろ関わらせていただきましたけれども、長くいい形で続いていくといいな、新しい活動が立ち上がっていくといいなと感じました。

○委員 2年前に社会教育委員にと言われて、お引き受けしたんですけれども、私がやらなくてはいけなかったんだということに気づいて、自分でやって、それを発表しなさいと言われ、私がしなくてはいけないんだと思ったときに、委員から、学校との連携について私だったらいいと思うよとおっしゃってくださったから、もう一歩が踏み出せたと思っております。学校と子どもについての話が学校の担任の先生と一緒にできたというので、この委員をお引き受けしてよかったなと今改めて思っているところです。

議長がお書きになった「校内カフェの試行が報告された際に」の段落のところ、「親たちが子どもといっしょに登校し、校内カフェでコーヒーを飲んでから図書館でテレワークをしたり、……というのも夢物語ではない」は、何ですてきなことを書いてくださったんだろうと。私、これでとてもやる気が出るというか、目指すところはこういうところにあるんだなという気持ちでこれからも取り組んでいきたいと思いました。

○委員 今回、私が社会教育委員の会議のメンバーに入れてもらって、いろいろな団体のお話を伺ったんですけれども、皆さん、すばらしいですね。僕もオール世田谷おやじの会でいろいろな活動をしてきましたけれども、まだまだやることはいっぱいあるなと思って、非常に感銘を受けたというのが1つ申し上げたいところなんです。

この活動報告書のまとめに書いていただいたところなんですけれども、おやじの会の勧誘をするときに「忙しくて、できない」「そんな時間はない」と言うおやじも結構いて、反面、僕が見ているようなおやじの会のメンバーはめちゃめちゃバイタリティーにあふれていて、そこまでやらなくてもいいのにといい一生懸命やっているメンバーがいて、この違いは一体何なのだろうとふだんから思っているところで、個人主義というか、自分さえよければいい、自分のことだけで手いっぱいだという人たちと、それを踏まえても、人のために、子どもたちのために、みんなのために何か活動しようという人たち。ここにいる人たちはほぼそうだと思うんですけれども、そういう人たちとの違いはどこからできるのか、非常に不思議で、後者のみんなのために活動する人たちをもっと増やすためにはどうすればいいんだろうかというのをオール世田谷の活動をしながら常に考えてきているんですけれども、「おわりに」にも書いていただいているように、自らがやる気になるというか、夢を見るだったりとか、こんなことが起こったら、こんなイベントができたらいいなという、まだないものに対して意欲をかき立てられるおやじたちというのがおやじの会の1つの大きな原動力になっていると思うんですけれども、そういう姿を子どもたちに見せる、教えるのがおやじの会の存在意義としては非常に大きいと思っています。

前にも申し上げたと思うんですけれども、これから子どもたちの世界は、AIだったり、語学を勉強する必要がなくなるかもしれないとか、僕らが今まで生きていたいろいろな社会的な前提とは違う状況にどんどん変わっていく中で、子どもたちがどう生きていけばいいか。知識を頭ごなしに勉強するのではなくて、何かの課題に対して、仲間と協力してその目標を達成すると。それは前に申し上げたと思うんですけれども、多分それが一番子どもたちに教えなければいけないことなのではないかなと思っていますので、その背中を子どもたちに見せるのがおやじの会で、「頑張れ、おやじ」と言って背中を押しているんですけれども、おやじの会をやっていて本当に意欲的なおやじたちに出会えて、また、今日ここにいるような人たち、地域のために、子どもたちのためにと自ら活動している人たちとできるだけ今後も連携して何かできたらいいなと思っています。

僕が今後やりたいなと思っているのは、おやじの会は子どもと子どものためのイベントをやるのがメインであって、そこがきっかけなんですけれども、この間の情報交換会でおやじたちに言ったのは、人生100年時代になって、子どもたちが家庭を持って巣立っていったときに、おやじたちは、定年になったり、仕事から離れて孤立していくようなことも問題視されていますけれども、子どものためにといい時代はそのときには過ぎると思うんで

す。そのときに地域のために一緒に何かやっというふうな仕組みができたらいなと常に思っていて、そのような流れにおやじの会の活動をつなげていけたらいいなと思っています。

○議長 続いて、委員お願いします。

○委員 約2年間、本当にお世話になりました。そして、皆様の活動を深く深く知ること、こんなに素晴らしい活動があったことを知らなかったのは本当に損失だったなとすごく思っています。子育てをしているときに知っていれば、もっと利用したり関わったりということがあったので、広く伝えていきたいことだなと思っています。

今回発表させていただくに当たり、いろいろ検討する中で、ここにも「学校と地域の活動はそもそもの原理や機能が異なることを理解し」と書いていただいているんですが、学校やPTA、そういうことに直接、深く関わっていたわけではないので、その境、原理がよく分かっていなかった、ここを意識することは非常に大切なことだなと改めて思っています。今、子ども食堂ですとかユースキッチンをしている中で、組織化されていないので、本当にふらっと、ふわっとやっているので、お子さんを育てた経験のない方ですか、お一人で年をだんだん重ねていく、その先が不安で、先に貢献したいというような意思を持たれている方、PTAを経験していない方々も参加している。そういった様々な方たちとお話をする中で、子どものためだけけれども、自分のためというのがすごく感じられるんですね。逆に言うと自分のために子どもの活動をしているようなこともあるので、それはどちらでもいいんだろうなと思っていて、みんなが幸せで、そして、地域で楽しく暮らしていけるものをつくっていったらいいのではないかなと、そう思っております。

委員のお話をもう少し聞きたかったなというのが私の感想ではありますので、今日は少しお聞かせいただけたらいいなと思っております。ありがとうございました。

○委員 皆様、2年間、大変ありがとうございました。私の立場といたしましては、世田谷区青少年委員会で参加させていただきました。一番最初、一地域資源活用型連携・協働モデルの可能性と課題一、何だろうな、難しくて、ついていけるかなというのが実際だったんです。と同時に、どこまでついていけるかなとすごく不安だったんですけれども、皆様のお話を聞いて、4団体の皆様、実際活動されている方々のお話を聞きまして、世田谷区はすごい広いんですね。

ただ、この会議へ参加させていただきまして、皆様の取組を聞きますと、やはり子どもの健全育成、地域とのつながりとなりますと、基本は、足元をしっかり捉えて、子どもた

ちのために、スポーツにしろ、子ども食堂にしろ、ぶんか村にしろ、おやじの会にしろ、子どもたちのためと同時に自分たちが楽しんでやるんだと。長くつなげるということは、そういう足元をしっかりと、子どもたちに見せ、子どもと大人がつながり、その前に大人同士がつながっていく。当然そこには行政があります。世田谷をよくしようという人たち、世田谷に住んで、この環境を守ろうとする人たちが集まって、まず子どもを育て、地域を育て、それがこういう皆さんの発表の中でも、自分が思ってきた大切なことは間違いないんだ、自分自身もそのように活動していこう、また、青少年委員の立場から、事あるごとにそういう話ができるという機会をいただいたことに対しては、すごくありがたく感じています。

ちょっと雑駁になりますけれども、やはりつなげることの大切さというのは、足元をしっかり見据えて、大人同士が楽しく活動しながら、子どもに手本を見せる。だからこそ、大人として、この会で聞いたことの大切さをつくづく実感させていただきました。

いろいろな話をしてしまったんですが、以上になります。ありがとうございました。

○委員 この会に参加させていただいて、夜の会議なんですけれども、学校から出てくるときも、不思議なことにここに来ると、エネルギーが出てくるんですね。新たなアイデアがすごく湧いてくる、皆様には本当にお世話になったなと振り返っています。

私は常に新しいことを始めようと考えていて、そのときの視点としては、子どものためにとは言っているけれども、先ほどから皆様が言っているように大人のためにもなるというか、子どものことを中心に何かを考えているけれども、実は大人もその中で楽しい何かを期待している。

最近の子どもなんですけど、卒業証書授与のときに、小さい学校だからできる時間があるというか、一人一人に一言言わせるようにしているんです。その中で、コロナ禍の中で変わってきたなと思うことがあるので、今後の子どものことを考えるときの参考までになんですけども、何々をしてもらったのが楽しい思い出ですとは語らないんですね。何と語っているかという、自分の将来はこういうふうにしたいとかと語るんですね。そのためには、まずこんなことをしなくてはいけないとか、外国語、英語を勉強してとか、自分のプランみたいなものを語るんですね。その中には、日頃、誰々先生とか地域の誰々さんを見ていて、そんなふうな夢を抱いたとかなんとかと、短い中にそういうふうなものが出てきます。

それが教員の誰かというよりは、違う人なんですね。地域で会えばいつも挨拶をしてく

ださった方がいて、そういう大人になりたいと思ったとかというのが今日本当にあったんですね。なりたい職業も、お花屋さんとか、ケーキ屋さんとか、そういうのではなくて、今日多かったなと思ったのは、研究者になりたいでした。既に何人かは自分の興味の対象があって、それを深く考えて研究してみたいとか、それを実現する社長になりたいとか、そういうことを言っています。だから、社会教育的なこと、地域との連携を考えたときには、今後は子どもの意見も真面目に言わせてみたらどうですかと私は思います。

浅いようでもあるけれども、自分が小学生だった頃には考えもしなかったようなことを今の子たちは考えている。コロナのせいも1つあります。そのときにできなくて、我慢していたときに、こんなことができるかなとかと考える時間がたっぷりあったのかもしれない。そして、こんなことがやれたらいいなという夢も同時に膨らみました。その実現のために、私は自分の学校ではちょっと変わったことをいろいろさせていますけれども、ほかの学校でもやればいいのになと思うことがいろいろあります。なので、私には校長先生たちに広める役割がある。地域ともっと関わりを持って、いろいろな人材をとったら変だけれども、地域の人の声を聴いて、やれることを探したほうがいいよと時々言っているんです。正直言って、どうやってやるのという答えが返ってくることは少ないんですね。先ほど言っていたけれども、ハードルが高い、ちょっと敷居が高いと思っても、お互いに歩み寄る努力をするとか、機会を捉えるとか、そういうことをしていくことが最終的には必要。もしあれだったら、その中心に子どもを置いて、子どもにまちづくりのアイデアみたいなものを聞いてもいいかなとか、どのようなまちにしたいかと。

学校は地域のものですよね。言い切ってしまうでもいいと思います。転勤していく人も多いかもしれないけれども、そこで生まれ育ち、3世代とか結構いっぱいいます。そうすると、自分が大人になったときにはつくっていく中心になるではないですか。そういうふうに子どもたちが考えているとしたら、やっぱり地域のものだと思います。転勤ばかりしているような学校にしては駄目ですよね。そこに愛着を持てるような地域にしていかななくては駄目だなと思っています。ありがとうございました。

○副議長 本日、ほかの会議の関係で遅れてしまい、申し訳ございませんでした。

まずは2年間、本当にお疲れさまでした。どうもありがとうございました。私がこの2年間で感じたことは、私が初めて世田谷に関わったのは約20年ぐらい前なんです。最初、烏山地域に関わらせていただいて、烏山北小なんですけれども、そのときに思ったのは、地域の人が学校に協力的で、本当にすごいなと思ったんですよ。世田谷は我々教育行政と

か学校経営の研究者の中ではかなり進んでいるほうで、いわゆる学校運営協議会、学校運営委員会、コミュニティスクールも、西の京都、東の世田谷と言われるぐらい有名なところだったので、さすがそれだけあるなとは思っていたんです。

確かに地域差はあるにしても、今回、この2年間で、地域が違う4つの取組を聞かせていただいて、改めて地域には人材とネットワーク等、いろいろなものが埋まっていて、それが歴史的に積み重なって、そういう活動につながっているんだなと改めて痛感させていただきました。

ただ、今後、それをどう継承し、発展させていくかというところは非常に課題だろうなというのも同時に思っています。そういう意味では、さっきもおやじの背中を見せる、大人の背中を見せるというところで、やっていかななくてはいけないんだと思うんですけども、次の世代というのは子どもたちなんですよね。子どもたちに何かしてあげたいではなくて、子どもたち自身がしたこと積み重ねが、ずっとこの地域に住んでいこうとか、将来、もしここで結婚して、子どもが生まれたときに、そういえば、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんがこうしていたよな、自分たちのときもそれをやるのが当然みたいな感じになっていくといいのかなと思うんですね。なので、今後、子どもの意見を聴きながら、子どもを巻き込みながらというのは私も非常に賛同いたしました。同時にそういう活動をどう広げていくかが今後の大きな課題かなと感じました。

改めて私も勉強、学ばせていただきました。どうもありがとうございました。

○議長 今、学校は変わりつつあるというか、変わらざるを得ないような状況になっていると思うんです。コロナ禍もありましたし、ICTとか、AIの普及もあります。とか言われて。地域社会のあり方も変化していますし、一人一人、いろいろな価値観や状況の中で、幸せって何だとうと問い直し始めている。おやじの会の話をいろいろ聞きましたけれども、お父さんたちもいろいろと活動していますので、学校がずっと同じ形でいるのは維持しなければいけない部分はあるでしょうけれども、同じでいることはできなくなってきているのではないかなと思うんです。学校は、意図的・方法的に子どもたちを社会化していく場所ですので、きちんとやっていなければいけないところがありますが、でも、きちんとやろうと思ってもできないところがでてきている。特に若い先生たちは、もうどうしたらいいか、分からないようなことがありますので、そういったときに、学校とは違う、世の中のいろいろな在り方を取り入れていかざるを得ないような状況になっているのではないかなと思います。

そういった意味でも皆さんの御意見を聴いていて、例えば、「学校の中に学校と関係のない人がいたらいいよね」とか、「ふわっと、ふらりとしている感じがいい」とか。とても新鮮に感じました。学校はそういうことをあまり考えてきませんでした。学校の中に「学校と関係ない人」がふらふら入っては困るというスタイルでやってきたはずなんですね。勉強についても、前年度に「教育課程」を届け出て、それに基づいてやることになっていますので、そんなにいろいろな新しいことを思いつきで、まあ、時にはするときもあるでしょうけれども、しないことになっています。でも、そういうやり方ではもう、うまくいかなくなってきた。学校では「勉強に関係のないスマホはちゃんとしまっておきなさい」と言っていましたけれども、スマホをしまっていたら、困るような時代になってきています。スマホからはいや応なく新しいものや面白いもの、ためになるものが流れてきます。そうすると、学校も変わらなければいけないし、地域社会も同じです。地域社会をどうとらえるかは難しいですが、委員が言われているおやじのみなさんは、「会社とは違うことを考えるのが楽しくて、活動している」ということでしたし、委員は「先生方に関わってもらいたいといっても、先生にも地域があるんだから、無理に日曜日とかに勤務先の地域に関わることはない」とおっしゃっていました。まだ、「正解」はないんですけれども、新しい考え方や動きが少しずつ芽生えているように感じます。

そうしたさまざまな考え方や動きを今度どう活用していくのか、ということで「第30期社会教育委員の会議」の活動報告書を教育委員会に提出するわけですが、社会教育の領域だけで片づくものではないので、学校教育などとの関係性、連携が重要となります。行政はどうしても縦割りが多いので、行政の部局を超えたところで生かしていただけるよう、委員の一人として切に願っております。

議長というお役目をいただいたわけですが、皆さんのいろいろなアイデア、いろいろな御意見をうまく進行できたかどうかというところは、少し心残りというか、反省点がありますけれども、皆さんのご協力で有意義なディスカッションができたのではないかと思います。特に、4人の委員には、時間も、予算のないなかで、実践的な試行をしていただきましたことを心から感謝を申し上げます。

私たちの議論や実践が、今後の世田谷のいろいろな活動に少しでもプラスになれば、委員の一人として大変うれしく思います。

委員の皆様、教育委員会事務局の方々のおかげをもちまして、2年間、活動をすることができ、また、このような報告書をまとめることができました。最後に、改めて感謝を申

し上げて、終えたいと思います。どうもありがとうございました。

少し早い時間ですが、議事としては終えたいと思います。

閉会の前に事務局から御挨拶があると聞いておりますので、お渡しいたします。

○知久教育政策・生涯学習部長 公務が重なったこともございまして、4月に着任したんですが、今日が初めての出席になりましたことをおわびさせていただきます。

社会教育委員の皆様には、2年間にわたりまして、大変ありがとうございました。今期の活動報告書をおまとめいただきまして、私も目を通させていただきましたが、中に書かれておりました4人の委員の方々の取組ですとか、今の感想をお聞きして、改めて、学校が地域に支えられていることと併せて、地域における学校施設のさらなる活用ですとか、広がりを感じさせていただきました。この間、いろいろと御苦勞があったと思えますけれども、議長をはじめ、各委員の皆様には改めて感謝申し上げたいと思います。

本日いただきました活動報告書につきましては、教育委員会に提出させていただくとともに、今後の社会教育行政の参考とさせていただきます。

結びになりますが、改めまして、2年間、御協力いただきましたことに感謝申し上げ、事務局からの挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。(拍手)

○事務局 これで今期は全て終了ということになります。ありがとうございました。

午後7時39分閉会